

會學濟經學大國帝都京

# 叢論經濟

號一第 卷五十二第

行發日一月七年二和昭

## 論叢

公益團體の課税 . . . . . 法學博士 神戸 正雄

マルクスの農業労働者に関する見解 . . . . . 法學博士 河田 嗣郎

ミルのエソロチー論 . . . . . 文學博士 米田庄太郎

## 時論

上海中立に關する一考察 . . . . . 法學博士 末廣 重雄

## 說苑

宗門人別改制度の沿革 . . . . . 經濟學士 菊田 太郎

工業分布論に關する文献 . . . . . 經濟學士 黒正 巖

## 雜錄

精神労働者と獨逸所得税法 . . . . . 法學士 沙見 三郎

獨逸都市に於ける乗合自動車交通 . . . . . 經濟學士 山口 信男

スミスとリストの經濟發達階段說 . . . . . 經濟學士 上田藤十郎

京都帝國大學經濟學會大會記事

## 法令

國債整理基金特別會計法中改正・不良住宅地區改良法・土地貸賃價格調査委員會法・土地貸賃價格調査委員會法施行規則

## マルクスの農業經濟觀

### 其二　農業労働者に關する見解

河田　嗣　郎

#### 六

農業の資本主義的なる發展につれて、自作的小農民階級は、漸次其の經濟上の獨立を失つて無産階級に落ち行くことは前に述べた通りであつて、マルクスは資本的な大農業の壓迫の爲に、此現象は資本制の下に於ては避くべからざるものと見て居る。そしてその所謂農村無産階級は本來は解放されたる農奴の類から出來上つて居て或は分益小作人として或は賃傭労働者として農業に従事するものであるが、これ亦資本制の發達に伴ひ漸次過剰人口となつてしまつて、外國に移住するか都市の無産者として其所に流れ込む外はなく、其境遇は甚だ劣惡なるものと觀られて居る。

然るにマルクスの見地に從へば、此農の村無産階級は農業政策問題の中心を爲すこと、工業勞

働者が工業政策問題の中心を爲すに異ならず、此等の無産者にこそ將來は屬するものであつて、地主階級や自作的小所有者階級の如きは、もはや過去に屬するもので將來を有つて居ない次第である。

仍て茲に進んで先づ農村無産階級の發生について見るに、マルクスは其過程に關しては資本論中にかなり詳しい説明を爲して居る。

農村労働者階級は其現在の形態に於ては階級としてまだ餘り古いものではない。そしてマルクスの觀る所では、農村労働者を階級として形成せしめたものと、其の階級の歴史的進化の過程に於て再び之を抑壓し困窮ならしめその經濟上の重要さを減せしめ之を埋没してしまふものとは、同一の現象に外ならない。此の現象は即ち資本主義的なる生産組織であつて、その組織は工業に於て既に支配權を獲たるほど速かにではないが却つて確實に農業に於ても支配的地位を占むるに至るものである。即ちそれは農業に於て大經營をば支配的地位に就かしむると同時に、農村無産者の現時の階級を造り出すものである。

昔時の半奴隸的な農民は解放されて自由民とはなつたけれども、自由の與へられたのはたゞ法律の上だけでのことであつて、經濟的には却つて以前にも増した壓迫を被ることゝならざるを得なかつた。即ち農業労働者に取つては、生産過程上に於ける資本主義的なる變化は、彼の個人的

なる生活と自由と獨立とに對する組織的なる抑壓たるに外ならなかつた。然るに前にも述べたやうに都市労働者は、集合といふことに依て其の抵抗力を増すものだけれど、農業労働者は廣い面積の上に分散して居るものだから其抵抗力は弱からざるを得ない。従て其の境遇は劣化するまゝに委かざる、外はなく、都市の工業に於てもさうであるが、現時の農業に於ても亦労働の生産力の増加と其融通性とは、労働力それ自身の荒廢と衰弱とに依て購はれることになつた。然るに尙ほ同時に又現時の生産組織は農業労働者の精神生活をも打破するのである。かくて即ち資本主義的經濟は農業労働者階級を造り出すと共に又その境遇を惡化せしめ困窮に陥らしめる次第である。

右は農村無産労働階級の發生と其境遇の劣化とに關する概括論であるが、尙今少しく詳かに之に關するマルクスの所説を窺つてみやう。

マルクスの説明によれば、資本制的社會の經濟的構造は封建社會の經濟的構造の中から生れ出たのであつて、封建社會の瓦解は資本主義社會の構成に必要な要素を解放した。その要素は二方面から表はれたもので、一は農民解放により農村方面から、他は工業組合の解體により工業方面から。即ち「直接の生産者たる労働者は、生れ故郷に縛りつけられ他人に隷屬所有せられることなきに至つてから後初めて自己を自由に處理することを得た。又市場を見出す所へなら何處へで

も彼の商品を持つて行く勞働力の自由な賣手となるためには、彼は組合の支配、徒弟及び職人規定並びに妨害になる勞働規約から脱せなければならなかつた。斯くて生産者をは賃傭勞働者に變せしめる所の歴史的な運動は、一面には隸務と組合強制とからの彼等の解放として表はれた。」  
「然るに他面には又此等の新被解放者等は、總べての彼等の生産手段と、古き封建的制度に依て與へられたるあらゆる生存上の保障とが、彼等から剝奪されたる後初めて彼等自身の賣手となるのである。<sup>46)</sup>」

賃傭勞働者と資本主とを共に發生せしめたる此の進化の出發點は勞働者の隸屬といふことであつた。そして其進化の前進は此の隸屬の形式の變化に存した。即ち封建的搾取より資本主義的搾取への變化に存した。その進路を知、爲には吾々は決して遠きに遡るを要しない。資本主義的な生産の開始は既に十四及十五世紀に於て地中海沿岸の二三の都市に個々これを見ることが出来るが、資本主義時代なるものは十六世紀に其紀元を置いて居る。そして其出現した所に在つては、隸民制の廢止は久しき以前に完成せられ、中世時代の光輝點たる自由都市の存在は久しき以前に死骸になつて居た。<sup>47)</sup>

本來的なる蓄積の歴史に於て劃期的なるものは、今や出來上りつゝある資本主義階級が之を槓桿として用ゐる所のあらゆる變化である。就中特に大いなる人間の集團が急にそして力づくで其生

46) Das Kapital, I. Bd. IV. Aufl. S. 680 ff.; Volksausgabe S. 646 (第一版には此通りの文句は無い。違つた形で説明が爲されてある。)

47) I. Aufl. S. 701; IV. Aufl. S. 681; Volksausgabe S. 647 (第一版と第四版以下とは同意ではあるが多少文句が變つて居る。)

存手段からもぎ放され自由なるプロレタリアルとして勞働市場に撒き放らされる瞬間である。そして農業的生産即ち自作農民に對する土地剝奪はこの全過程の根柢を爲すものである。尤もその剝奪史は國々によりて種々の色彩をもつて異なる順序で違つた時代に表はれるものだが、マルクスはたゞ英國に於てのみ其典型的な形式を見るを得るごした。<sup>48)</sup>

英國に於ては農奴制は十四世紀の終期には既に事實上消滅に歸して居た。其當時特には十五世紀に在つては、人口の大部分は自由なる自作農民から成立つて居た。大所有地に於ては既に在來の隸民は自由小作人に依て取て代られて居た。農業賃備勞働者は一部分は農閑の時間を大所有者に雇はれて有効に用ゐんとする自作農民から、一部分は相對的にも絶對的にも其數少き眞實の賃備勞働者から成立つて居た。然かも後者と雖も事實上は同時に自作農民であつた。即ち彼等は賃金以外に四エーカーの土地を小住家と共に給與されて居たからである。又彼等は眞の自作農民と共に共有地を用ゐる其所に家畜を放牧し同時に薪炭木材等を獲る權利を享受して居たからである。

然るに資本主義的生産方法の基礎を造れる大變革の序幕は十五世紀の三分一及十六世紀の初の十年間に演ぜられた。即ちそれ迄空しく家や城塞に充ちて居た所の封建的な御家來共が解放されて自由無産者の大衆が勞働市場に撒き散らされたのである。<sup>49)</sup>そして自作農民等の住居と勞働者等の小舎とは壓制的に取毀され又は朽廢に委せられた。一四八九年頃には耕地は益々牧場に化せら

48) ebenda

49) 1. Aufl. S. 702; IV Aufl. S. 682ff.; Volksausg. S. 618 ff.

れ、小作地は侯領地に化せられた。<sup>50)</sup>又多くの自作地及家畜特に羊の大群團は小數者の手中に集め

られ、それが爲めに地代は甚しく騰貴し、教會や家々は取毀され、驚くべく多數の民衆は自己及家族を支持すべき生計手段を失つたのである。<sup>51)</sup>斯くて資本主義的生産の命ずるものものは、實に大衆の隷僕的狀態であつた。彼等自身の被傭者化と其勞働手段の資本化といふことであつた。<sup>52)</sup>

英國農村の中堅を爲して居た獨立自作農民たるイヨーマン階級 Yeomanry は、十七世紀の最後の二三十年間に於てはまた小作人階級よりも多數であつたが、一七五〇年頃イヨーマン階級は亡滅してしまつた。そして十八世紀の末期に於て農業勞働者の共同所有地の最後の痕跡は消へてしまつたのである。<sup>53)</sup>獨立なるイヨーマン階級の代りには地主の任意に契約を解除する小作農民 *half-acre-men* が表はれた間に、一年の告知解約による小小作人で地主に隷屬し其意思に従屬する衆群は、他方國有地の掠奪即ち共同所有地の組織的なる盜取と相並んで、十八世紀に於て人々が之を資本小作若くは商人小作と名けたる大小作制の膨脹と、農民をばプロレタリアートとして工業の爲に放ちやる勢とを助けた。<sup>54)</sup>

圍繞地化するといふ口實の下に隣接の地主に依て其私有にせられたものは、たゞに休閒地のみではなく、共同に耕地せられ又は共同體に對して一定の支拂を爲して耕作せられたる土地も亦屢々併合された。

50) I. Aufl. S. 704; IV. Aufl. S. 684; Volksausg. S. 650

51) ebenda

52) I. Aufl. S. 705; IV. Aufl. S. 686; Volksausg. S. 651

53) I. Aufl. S. 707ff.; IV. Aufl. S. 688; Volksausg. S. 653ff.

54) I. Aufl. S. 710; IV. Aufl. S. 690; Volksausg. S. 656

ドクトル、プライイスの言ふには「土地が少數なる大小作人の手中に歸する時には小小作人等（以前は彼に依て「彼等に依て耕されたる土地と共有地に追やり従て其の食糧を買ふ必要のなかつた羊や家禽や豚やからどの生産物に依て彼等自身及び彼等の家族を支へて居た小所有者と小作人と多數」として示された）は他人に對する勞働に依て其生活費を獲なければならぬ所の、そして彼等の必要とするあらゆる物品の爲に市場に行くべき餘儀されてある所の人々と化する。……恐らくはより多くの勞働がなされるであらう。なせならより多くの強制が存するから。……都市と製造工業とは増加する。なせなら仕事を求める多くの人々が其方に驅り立てられるから。これは小作の集中といふことが自然的に其働を爲す所の道であり此國に於ては多年來そが實際的に其働を示した所の道である」と。そして彼は土地圍繞化の全教程をば次のやうに總括して居る「全般的には下級國民階級の狀態は殆んどあらゆる見地に於て劣化した。土地小所有者と小作人とは日傭勞働者と被傭者との地位に押下げられた。そして同時に生活費獲得は此狀態に於て更に困難にせられた」と<sup>55)</sup>

共同所有地の横領とそれに伴へる農業革命とは實際に於て農業勞働者の上に斯くも嚴しき効果を及ぼした。即ちエーデンの説く所に従へば一七六五年から一七八〇年の間に於て彼等の賃金は最低限を降下し、官廳の救貧費に依て補充され始めた。彼のいふ所によれば「彼等の賃金はたゞ

55) I. Bd. I. Aufl. S. 711ff.; IV. Aufl. S. 690ff.; Volksausgabe S. 656ff.



僅かに生活の絶對必要を充すに過ぎなかつた。<sup>066)</sup>

農民に對する土地掠奪の最後の大過程は實に所謂所有地の掃除 *Clearing of Estates* 即ち大所有者がその所有地内から百姓を驅除して邪魔物を掃除するやうに百姓を掃蕩してしまつたあの大仕掛な暴擧であつた。これは實に上に段々述べて來た英國流のやり方の中で其絶頂を爲すものであつた。マルクスは其農民掃蕩の行はれたる有様を詳かに述べて居るが、驅除せられたる農民等は或は都會に流れ行くか、さもなくば更に不毛なる土地に移されて其所で細々と烟を立て、行く外はなかつた。斯くて曩には農民の住んで居た所には羊が住むやうになり、それも亦次には鹿の住家と化してしまふのである。即ち農地は牧場と化し牧場は獵場と化するのである。

斯くてマルクスは結論を與へて曰く「寺領地の略奪、國有地の詐偽的な處分、共有地の盜取、顧慮する所なき威脅手段を以て遂行されたる封建的なる又氏族的なる所有地の近代私有地への橫領的な轉化は、すべてこれ本來的なる集積の牧歌的なる諸方法であつた。即ちそれは資本主義的農業の爲に農地を奪つた。土地を資本に合體せしめた。そして都會の工業の爲に安きプロレタリアートの必要なる供給を爲した<sup>067)</sup>」と

要するにマルクスは資本の本來的集積の過程を示す爲に英吉利の實例について説明したのでが、それは實に小農地の所有者と小作人階級とが土地に離れ生産手段から離れて無産者化して行

56) I. Aufl. S. 713; IV. Aufl. S. 693; Volksausg. S. 658

57) I. Aufl. S. 718ff.; IV. Aufl. S. 699; Volksausg. S. 663ff. (第一版と第四版以下とては字句が一寸ばかり違つてゐるが意味は同一である。)

過程を示すものであつた。そして其代りに表はれたるものは大地主の土地悪用(耕地の牧場化若くは牧草地の狩獵場化若くは全くの荒廢)と資本主義的なる近代的企業を行ふ大小作制度とであつたのである。マルクスが觀察し記述せる以後に於ける英國農業界の變化は多少狀況を異にするものがあるが、少くともマルクスの觀察に入つて來た時代に於ける變化は正に斯くの如く本來的集積の典型的状態を示すものだったのである。そして一方に於ける資本の集積は同時に他方に於ける貧窮の集積たることを忘れてはならぬ。

## 七

白作的小農民等はその土地を奪はれて無産者化してしまひ、被傭者化してしまふ外はなかつたのだが、それよりも更に進める勢としては、此等無産者化する農民は本來の無産者等と共に農村に於ける勞働供給の過剩を來し、從て彼等は職を求めて或は都會に或は又外國に追ひやられる外はなかつたのである。即ち「資本主義的生産が農業を征服すると共に、若くはそが農業を征服したる程度に於て、其方面に働く資本の集積せられるに連れて、農村勞働人口に對する需要は、農業以外の産業に於けるが如く其排撃はより大いなる吸引に依て補充せられることなしに、絶對的に減少するものである」<sup>58)</sup>。

經濟界に於ける進歩特には生産技術の發達につれて勞働の生産力は増進する。然るに勞働の生

産力が増加すれば一定の生産物を造り上げるに要する労働時間は減少せざるを得ないし、然かも資本主の目より見れば、労働時間の減少といふことは所要可變資本の減少を意味するに外ならぬ。されば労働生産力の増加は所要可變資本の減少を齎す。即ち可變資本は不變資本との相對關係に於ても減少するし總資本に對する相對關係に於ても減少する。然るに茲に注意すべきことは、所要労働時間の減少若くは所要可變資本の減少といふことは、比較的少數の労働者が用ゐられることゝなるを意味することである。その結果として労働者中に失業者を増し労働豫備軍の膨脹を來たすはいふ迄もない。たゞ此の過程は工業方面に在つては種々の事情の爲に緩和せられるものであつて、或程度までは其過程の進行を阻止せられることもある。それは新工業の勃興であり又既存工業の擴張である。されば或時期に於ては工業方面に在つては可變資本と在職労働者數とは相對的には減少を示すけれども絶對的には其數と額とを増すことあるを見るを得る。

併しこれは工業方面に於けることであつて、農業方面に於ては事情これと異なるものあるを知らねばならぬ。農業に在つては可變資本に對して不變資本の方が却つて相對的に増加する傾向の存するを見るけれども、それでもやはり労働生産力の増加と共に必要とせられる労働者數の減少を來す點に至つては同じことであつて、段々に労働者が過剩を來す勢は著しい。それに農業方面に在ては工業方面のやうに新たな事業の勃興などに依て無産者に労働を與へる機會の生ずることが

ないものだから、そこで農業に在つては労働者はたゞに相對的に減少するばかりでなく絕對的にも減少して過剰を生ずる次第である。<sup>59)</sup>

されば農村人口の一部分は常に都市無産者若くは農業以外の産業無産者に移行行かんとする態度を以て都合よき機會の到來を窺つて居る。この相對的過剰人口の泉源は絶へざる流を爲して居る。併し都市に向つてこの絶へざる流れの存することは農村には常に潜在的な過剰人口の存することを前提とする次第で、其大きがどの位であるかは、其流出口が開放せられるに依て市めて明瞭となる。従て農業労働者は賃金の最下限度まで押し下げられ、いつでも貧困の泥濘に片足を踏んで居るのである。

マルクスが資本的集積の絕對的にして一般的なる法則として示す所のものは「社會的な富と働資本と其増加の範圍と精力と従て又無産者の絕對的な大きと其労働の生産力とが大なれば大なるほど益々以て産業上の豫備軍は大となる。用ゐ得らるべき労働力は資本の膨脹力と同一の原因に依て發展せしめられる。されば産業的豫備軍の相對的な大きは富の力と共に増加する。然るにこの豫備軍が現役労働軍との比較に於て大なれば大なるほど固定されたる過剰人口は多數となり、其困窮は其労働の苦惱に反比例する關係に在る。最後に労働階級の困窮部分と産業的豫備軍とが大なれば大なるほど公の救貧は大である。<sup>60)</sup>」と述べて居る。又曰く「それは資本の集積に對應

59) Cohnstaed, Die Agrarfrage in der deutschen Sozialdemokratie, S. 52ff.

參照

60) I. Bd. I. Aufl. S. 631; IV. Aufl. S. 609; Volksausgabe S. 581.

する困窮の集積を條件づける。されば一方の極端に於ける富の集積は他方の極端即ち自己の生産物を資本として生産する階級の側に於ける貧窮と勞働苦と奴隸状態と無智と野獸化と道德的退化との集積である」<sup>61)</sup>と。

この一般的な法則は讀んで字の如く一般的法則であるから、工業といはず鑛山業といはず商業方面にも農業方面にも妥當するものであつて、一方資本の集積の行はれるにつれて農業人口に於ても過剰部分を生じ、勞働生産力の増すにつれて農業人口は過剰を告げざるを得ざることゝなる次第である。

其實例としてマルクスの示す所によれば、資本の蓄積は同時にその集積と集中とを伴ふものであつて、英國全體についての古い官廳的な農業統計は存しないが、十個の侯領地については任意に造られたものがあり、それによれば一八五一年から六一年に至る間に於て百英町以下の小作地は三一、五八三筆から二六、五六七筆に減じ、即ち五、〇一六筆はそれよりも廣大な小作地に合併されたる事實を示して居る。<sup>62)</sup>

この資本主義的集中と農業人口過剰化の状況とに就いては、マルクスは英國内十二州の實狀に照して具體的な説明を與へて居る。今それ等の實例によつても知られる所を總括して見るならば、都會地への絶間なき移住と小作の集中、畑地の牧草地への變換、機械使用等に依て農村人口

61) I. Aufl. S. 632; IV. Aufl. S. 611; Volktausgabe S. 583

62) I. Aufl. S. 637; IV. Aufl. S. 615; Volktausgabe S. 587

の間斷なき過剩化と小住舎の取壊しによる農村人口の驅除とは、手を携へて進むものである。そして或地方が人口稀薄になればなるほど其相對的過剩人口は大きくなる。彼等の作業手段に對する壓迫は大となる。其住居手段に對する農村住民の絶對的過剩は大きくなる。從て村々に於ける地方的人口過剩と惡疫傳染の恐ある人間詰込とは大となる。散在せる小村と小町とに於ける人塊の稠密は、農村の表面に於ける強制的な人口驅除と對應する。其數の減少と其生産物の量の増加とに拘らず農業勞働者の不斷の過剩化は其貧窮の搖籃である。彼等の可能的貧窮はその驅逐の動機であり又彼等の慘めなる住居状態の主原因であつて、それは彼等の最後の抵抗力を打破し彼等を地主の純然たる奴隸と化し又小作人と爲し、賃金の最低限度は彼等に對する自然法則として固定してしまふのである。他方農村はその不斷の相對的人口過剩あるに拘らず同時に人口過少となる。此の現象は都市鑛山鐵道其他に對する人間流出の急激に表はれて居る地點に於ける地方限りのものではなく、到る所に於て收穫期にも春にも夏にも、注意深き集約的な英國の農業が餘分な人手を要する多くの時期に於て表はれる所のものである。即ち農村勞働者は農業の中位な需要に對しては常に多きに過ぎ、例外的な又は臨時的な需要に對しては常に少きに過ぐる。さればこそ公文書に於ては同一地に就て同時に勞働不足と勞働過剩との矛盾せる不平が記されたるを見る次第である。然るに臨時的なる若くは地方的なる勞働不足は何等賃金の引上を齎すことなく、却

つて女子や年少者を耕作と常に幼少なる年齢とに押下げる抑壓力として働くのである。女子と兒童との搾取が働くべき廣き餘地を見出すに至れば、それは男子農業労働者の過剰化と其賃金の低下とに對する新手段となつてしまふ。<sup>63)</sup>

この状態の循環論法的な美しき成果として東部英蘭土に於ては彼の移轉労働者隊制度が榮えて居るとマルクスは説いた。そして彼はこの移動労働者隊についてかなり詳しい説明を試みたのである。

マルクスは又愛蘭に於ける農民減衰の状況に就いて述べて居る。愛蘭に於ても亦農村の人口減退は多くの土地を耕作範圍外に抛り出してしまひ、土地生産物は甚だ減少し、牧畜の面積は擴がつたに拘らず其或方面に於ては絶對的に家畜減少を齎した。他の方面に於ては殆んどいふに足らざる然かも不休の退歩に依て中斷されたる進歩を齎した。然るにも拘らず人口の減少と共に地代と小作利潤とは絶へず騰貴した。尤も後者は前者ほど恒久的ではなかつた。其理由は容易に知る事が出来る。即ち一方に於ては小作の集中と耕地の牧場への變化との爲に全生産量の大部分は餘剰生産物に化した。全生産物は減少したるに拘らず其の一部を爲す所の餘剰生産物は増加した。他方に於ては既往二十年間殊には最近十年來肉羊毛其他の英國市場相場の騰貴せる結果とし

で、此の餘剰生産物の貨幣價格は其分量よりも急速に騰貴したのである。<sup>64)</sup> そして人口と共に農業に用ゐられたる生産手段の量も亦減少したりと雖も、農業に投せられたる資本の量は増加した。なせなれば従來分散されて居た生産手段の一部分が資本に變せられたから。<sup>65)</sup>

中小位の小作人も従て又従來とは異つた程度に於て、資本的に經營せられる農業の競争の爲に愈々壓迫せられ、賃傭労働者の階級に對して常に新兵を供給するのである。<sup>66)</sup> そして従前には農業労働者は事實上小小作人と融合し、主としてはたゞ、彼等が其所に働口を見出す所の中及大小作の後衛を爲すに過ぎなかつた。一八四六年の大事變以後初めて純然たる賃傭労働者階級の一部分即ち彼等の賃傭主に對してはたゞ僅かに貨幣關係に依て結ばれる所の一特殊階級を造り始めたのである。<sup>67)</sup>

要するに愛蘭に於ても亦資本主義的生産の進展に伴ふ事情の變化は英蘭に於けると大體に於て異なる所はなかつた。即ち耕地は化して牧草地となり、農民は化して賃傭労働者となつて、其の經濟上の獨立を失つた。然かも他方地代の騰貴は不斷の傾向として表はれ、労働者は益々以て雇主に對し從屬的な地位に置かるゝに至り、然かもその關係は元來たゞ雇傭といふ事務的關係なるに外ならず、たゞ賃金關係に於て兩者の結合はなされて居るに過ぎざるものとなつてしまつたのである。

64) I. Bd. I. Aufl. S. 692ff.; IV. Aufl. S. 669; Volksausgabe S. 636

65) ibidem

66) I. Aufl. S. 695; IV. Aufl. S. 671; Volksausgabe S. 638ff.

67) IV. Aufl. S. 672ff.; Volksausg. S. 639. (第一版には此邊の文句は書かれてない)



自作農民や小作農民が化して農業労働者となり、然かも彼等は相對的過剩人口たるを免れないやうになつた所から、彼等の生活状態は甚だ慘めなものたらざるを得なかつた。マルクスはやはり英國の状态に就いて最も劣れる賃金報酬を得て居る階層の人々の状態を叙するに當り、此等農業労働者階級の状态を明かにして居る。

一八六三年に樞密院は英國のこの最下級賃金労働者階級の困窮の状态を調査することにした。其調査の結果によれば、調査されたる農業労働者の家庭に於ては、其五分一以上は、炭素含有營養料の必要缺くべからざる攝取以下のものを攝つて居た。又其三分一以上は窒素含有食料の必要以下を得て居る有様であつた。そして三侯領 (Berkshire, Oxfordshire, Somersetshire) に在つては、窒素含有食料の最低限量をすら缺いて居る状態が平均的に存して居た。……農村労働者の中に在つては營養不良は主として婦女と兒童とに於て認められた。蓋し「主人は仕事をする爲に食はなければならぬ」から。<sup>68)</sup>

農業下層労働者はたゞに其營養状態が悪いばかりでなく、住居の状態も不健康極まるものであつた。マルクスは其状態に就いても詳しい叙述をして居る。其の一般法則とも見らるべきものは「生産手段の集中が大量的になればなるほど同一室内に労働者の之に應じた集積が益々大きく表はれる。」「從て資本主義的蓄積が急であればあるほど労働者の住居状態は益々みぢめなものとな

る<sup>69)</sup>  
」

總じて資本主義的生産と蓄積との矛盾せる性質は英國農業(牧畜を含む)の進歩と英國農業勞働者の退歩とに於けるほど露骨に現はれた所はないとマルクスは見て居る。<sup>70)</sup>アーサー、ヤングが一七七一年に農業勞働者に就いて述べた所によるも、當時の農業勞働者は「都市及農業の英國勞働者の黄金時代たる十五世紀」のことはいふに及ばず、「裕かに暮し富を蓄へ得たる」十四世紀の末葉の先住者に比較するも甚だみぢめな役割を演じて居る。一七七七年の或著者によるも「大小作人は殆んどゼントルマンの標準まで上つたが、貧乏な農業勞働者共は殆んど地上に押潰されてしまつた。……地主と小作人とは勞働者の壓迫の爲に手に手を取つて働く」と記されてある。そして實質賃金は一七三七年より一七七七年に至る間に殆んど四分一即ち二割五分を減じたことが詳細に示されてある。又リチャード、ブライの言ふ所によれば、近代の政治は上流の國民階級に都合よく、其結果として、晩かれ早かれ全王國はたゞゼントルメンと乞食と、貴紳と奴隸とのみから成立つやうになるだらうと<sup>71)</sup>

反ジャコビン黨戰爭の終に於ける農業勞働者の状態は、……名義賃金は一部は銀行券の下落により一部は其に伴つて生じた生活最必需品の價格騰貴に依り騰貴したが、眞實賃金の變動は甚だ單純なる方法に於て之を見極めることが出来る。即ち……教區は救恤金の形に於て名義賃金

69) I. Aufl. S. 645; IV. Aufl. S. 623; Volksausg. S. 594

70) I. Aufl. S. 661; IV. Aufl. S. 639; Volksausg. S. 608

71) I. Aufl. S. 661; IV. Aufl. 639ff.; Volksausg. S. 609.

をば労働者のたゞ單なる生存の爲に必要な正常額まで補充したのである。小作人より支拂はれたる賃金と教區から補充せられた賃金不足額との關係は吾々に二様のことを示す。一つには賃金が其最低限以下に下落したること、二つには農業労働者が賃儲労働者と被救貧民とから成立てる程度即ち彼等を教區の隸民に化せる程度を<sup>072)</sup>。

事情の斯かる状態は、一八三〇年のスウイング暴動が支配者階級に、穀物小屋の燃え上つた焰に依て、困窮と聞くて反逆的な不満が工業英國の表面下に於けるが如く農業英國の表面下にも同様に猛烈に燃えて居ることを、照し出すに至るまで、靜かに繼續したのである。サドラーは當時下院に於て農業労働者を「白人奴隸」と名け、一僧正は上院に於て之を反覆した。又其時代の最も著明なる經濟學者イー、ジト、ウエークフィールドは「南方英吉利の農業労働者は奴隸ではない、彼は自由民でもない、彼は被救貧民だと述べた<sup>073)</sup>。

穀物條令の廢止は英國の農業に一大衝動を與へた。——耕地面積は一八四六年より一八五六年間に四六四、一一六英町を増した。——同時に農業に従事する人々の總數は減少した。男女兩性の又あらゆる年齢階級の眞實な農業者に就いてみれば、其數は一八五一年の一、二四一、二六九人から一八六一年の一、一六三、二一七人に減つた。されば英國登録總長が「一八〇一年以來小作人と農業労働者との増加は農産物の増加と比例が取れて居ない」と適中したことを言つて居るが、

72) I. Aufl. S. 662ff.; IV. Aufl. S. 640ff.; Volksausg. S. 610.

73) I. Aufl. S. 663; IV. Aufl. S. 641; Volksausg. S. 610ff.

此の不權衡は、農村勞働人口の積極的な減少が、作付面積の擴張、集約農業、土地に合體せられ其耕作に獻げられたる資本の未曾有の蓄積、英國農事業史に其例なきほどの土地生産物の増加、地主の膨脹せる地代薄及び資本制的小作人の膨脹せる富と手を携へて進める最後の時代に更に一層よく妥當するのである。<sup>74)</sup>

ローチャース教授の言によれば、當時の英國農業勞働者は、十四世紀及十五世紀の先住者との比較はいはずもがな、一七七〇年乃至一七八〇年間の先住者と比較するも、其境遇が著しく劣化し、「彼は再び隸民となつた」のである。然かも食物も住居も悪くせられた隸民となつたのである。又 Dr Julian Hunter は農業勞働者の住居状態に關する劃期的な報告書に於て述べていふやう「Lind (農奴時代に於ける農業勞働者に對する名稱) の生活費は彼がそれで以て生き能ふ限りの低き額に定まつて居る——彼の賃金と住居とは彼から造り出される利潤に對しては計算にも入らない。それは小作人の計算に於ては零である。——」<sup>75)</sup>

一八六三年に囚徒の營養及勞役状態に關する調査が行はれたが、その結果によれば、「英蘭の監獄に於ける囚徒の食事と勞役場に於ける被救貧民及同國の自由農業勞働者の食事との周到なる比較は、明かに前者が後二者よりも遙かによく給養されてあることを示す。然るに懲役に附せられたる囚人に對して要求せられる勞働は、普通の農業勞働者に依て爲される所のもの、凡そ半分に

74) I. Aufl. S. 664-666; IV. Aufl. S. 643ff; Volksausg. S. 611-613

75) I. Aufl. S. 666ff.; IV. Aufl. S. 644 ff.; Volksausg. S. 613ff.

過ぎない。其他二三の刑務署長の證言によるも囚徒の食事の方が農業労働者の食事に優つて居る有様が明かにせられて居る。そして囚徒の食事を自由農業者以上若くはそれに近くせなければならぬ理由何處にありやと反問せられて居る。或報告中には次のやうなことが書いてある。「農業労働者はいふであらう、私はひどく働くのに十分食ふことが出来ない、私が刑務所に居た時分には私はそれほどひどく働かなかつたが食事は十分であつた、だから私には刑務所に居る方が自由の身であるより優しなのだ。」<sup>76)</sup>

ごにかく英國自由農業労働者の營養住居其他の生活状態は劣悪極まれるものであつた。マルクスは其状態について、ドクトル、ハンターの調査により、英國各州に於ける五千三百七十五の農業労働者住居の實状につきベッドフォードシャー以下十二州の標本的な状況を示して、其有様を明かにして居る。<sup>77)</sup> 何れを見ても慘憺たるものである。併し茲に一々それを紹介する必要はあるまい。

愛蘭に於ける小農民の状況も英蘭に於けると大差なく、或は更にそれよりも劣れるものである。其状態についてはマルクスは次のやうに述べて居る。

農業革命即ち耕地の牧草地への變化、機械の使用、厳しき労働節約等——の此等の結果は、外國に在つて其地代を消費する代りにお慈悲にも愛蘭に居り其領地に居住する典型のお地主様によ

76) I. Aufl. S. 667ff.; IV. Aufl. S. 645 ff.; Volksausg. S. 614

77) I. Aufl. S. 676fg.; IV. Aufl. S. 653fg.; Volksausg. S. 621fg.

つて、更に一層強められた。需要と供給との法則が全く傷はれることなからん爲に此等の殿様連は「今や其の全勞働需要をば、普通の日傭勞働者のそれよりも一般的に少き賃金に依て彼等の地主の爲めに土耕すべく強制せられ、又彼等が播種若くは收穫の大事な時期に際して彼等自身の畑を放置せなければならぬことから生じる不便や損失に對しては何等顧慮せられることなき小小作人共から充たす」ことになつた。

就職の不安と不規則、勞働閉塞の頻發と永き繼續、すべて此等の相對的人口過剰の兆候は、救貧事務監督官の報告に於ては同様にまた愛蘭農村無産階級の困窮として其條を示して居る。吾々は英蘭の農村無産階級についても同様の現象に遭遇したるを思出す。たゞ其異なる所は工業國たる英蘭に於ては、工業上の豫備勞働軍は農村から新兵を募るに反して農業國たる愛蘭にては農業勞働豫備軍は都市に於て即ち驅逐されたる農業勞働者の逃走所に於て新兵を募ることである。彼所では農業勞働の過剰者等は工業勞働者と化するが、此所では都會に逐ひやられる者等は同時に都市勞賃に對して壓迫を加へつゝ、依然農業勞働者としての性質を失はず、常に勞働を求めて田舎に送り返されるのである。<sup>078)</sup>

官廳報告書は農業日傭勞働者の物質的狀態をば次のやうに概括して居る。曰く「彼等は非常なる節儉で生きて居るけれども、彼等の賃金はそれでも尙ほ彼等と其家族とに食物と往居とを與ふ

78) 1V. Aufl. 674ff.; Volksausg. S. 640ff. (第一版には此邊の叙述が缺けて居る)

るに足るや足らずである。衣服の爲には彼等は以外の収入を必要とする。——彼等の住居の家園氣は、他の缺乏と一緒になつて、此階級をばチブスと結核との全く特別な程度に暴露してしまつた」と。かるが故に報告者の異口同音なる證言に従へば、一の陰鬱な不満が此階級の人々を通じて流れて居ること、又彼等が過去を憧憬して其復歸を希ひ、現在を恐れ、將來に對して絶望し、「煽動者の忌むべき影響にかぶれ」そしてたゞ亞米利加へ移住せんとする定まつた觀念を有つといふことは、怪むに足らないことである。<sup>79)</sup>

斯く觀來れば愛蘭も英蘭も殆んど全く同様である。農村の勞働者は何れに於てもたゞ單に動物的に生きて行くだけのことしか出來ないのであつて、人間らしき十分なる營養を得ることも出來ず、不健康な住居に在つて、襤褸を纏ふて、たゞ活さんが爲に働く外はなかつた。其所には文化的なる向上の爲に用ゆべき何等の餘裕もなく、所謂どん底生活を永久に繼續する外、將來に對する希望なく、過ぎし昔の好き時代のみ徒らに戀しくて、現在は呪はしいものだつたのである。そして斯かる狀況は資本主義的なる生産の發展に伴ひ新しき時代の齎らせる變化に外ならずと觀られることが、マルクスの見地に於ける特色を爲すを忘れてはならぬ。即ちマルクスは此等の現象を資本主義的集積の一般法則を説くに當り、其例解として叙べて居ることを注意せなければならぬのである。(完)